

2025 年 7 月 15 日

学校法人日本大学
理事長 林 真理子 様
学 長 大貫 進一郎 様

日本大学教職員組合
執行委員長 宮地 忠幸

重量挙げ部前監督の逮捕をめぐる本学執行部の対応に関する要求

2025 年 6 月 10 日、日本大学重量挙げ部の前監督が詐欺容疑で逮捕され、あらゆるメディアを通じて広く社会で報道されました。しかしながら、日本大学ホームページに掲載された大学のコメントは、その内容を見ても、過去の経緯や大学のこれまでの対応を真摯に説明し尽くしたとは言えません。

確かに今回の逮捕事件にまつわる問題は、昨年度以来、学内で取り組んできたものです。大学はその経過を逐次ホームページ上で報告していました。しかしながら、今回の逮捕報道を目にした人々の多くは、そうした経緯を何も知らないままに「また日大か」と受け止めたことでしょう。

今の日本大学に必要なことは、形式的な謝罪や情報開示ではなく、社会に対する説明責任を徹底的に果たすことです。とりわけ、①被害学生とその保護者への金銭面での補償、「心情面のケア」の取り組み、②一連の報道が、教育研究上にどのような懸念点が生じる可能性があるのか、③①と②について、学校法人としてどのように対応していくのか、再発防止へ向けてどのような取り組みを行っているのかについて、関係各所への丁寧な説明が求められています。そのためにも、責任の所在が不明な「日本大学」を発信者とするのではなく、理事長と学長自身の言葉で、お詫びと未来に向けた決意を語るべきであると考えます。

このような不祥事が続いているなかで、もっとも困惑しているのは、本学の学生・生徒たちをはじめその保護者、卒業生、本学の研究教育にお力添えをいただいている関係者の方々です。今こそ迅速かつ丁寧で誠実な姿勢で説明責任を果たさねばなりません。

そこで日本大学教職員組合は、本件に関する本学の対応について、学生と生徒、その保護者をはじめ本学に関わる関係者一人一人に声が届くような理事長・学長からの説明やコメント発出とともに、以下の事項についての対応を改めて求めます。

もちろん、私たち教職員もまた、この危機的状況を座視するつもりはありません。教育・研究の現場を守り、学生たちが安心して学べる環境の保持と向上に努めます。私たち自身も学生や生徒との対話を密にし、現場からのボトムアップによる信頼回復に全力を尽くす所存です。

なお本要求に対する回答については、7 月 31 日までに書記長の松橋まで文書形式にてお願いします。

記

- ① 被害学生及び保護者に対して、一連の不祥事について謝罪するとともに、これまでの金銭面での補償、「心情面のケア」の取り組みの実施状況について文書説明すること。
※日本語の文章として、恥ずかしくない書式で掲載すること。
- ② 大学本部および各学部、付属校のホームページにおいて、現役の学生や生徒、保護者に対して、学校法人として一連の不祥事にともなって厳しい社会からの評価がなされていることに対する謝罪と、再発防止策等について、学校法人として取り組んでいくことの強い決意を示すこと。
- ③ 大学本部のホームページおよび学内文書を通して、全教職員に対して、学校法人として一連の不祥事にともなって厳しい社会からの評価がなされていることに対する謝罪と、それぞれ社会的責務を負うことを自覚し、学校人としての自覚をもって職務(研究、教育)に、立場をこえてともに歩んでいくことの呼びかけを行うこと。
- ④ 秋(10月頃)を目途に、再発防止策の実施状況に関する学長他との意見交換等の場を設定すること。ここでは、受験生やその保護者等に対する情報発信の適切な対応が行われているか、私立大学経常費補助金の再交付へ向けた見通しについての見解も確認させていただきたい。

以上